

**コンタック総合研究所
「今どきのかぜ 実態調査」**



2014年10月

グラクソ・スミスクライン株式会社

【調査概要】

「1日2回でずっと効く」総合感冒薬「新コンタック®かぜ総合」を製造販売するグラクソ・スミスクライン株式会社のコンタック総合研究所※ (<http://contac.jp/soken/>) は、全国20～60代の男女約1,000名を対象に、かぜに関する最新状況などを世代別に聞いた「今どきのかぜ 実態調査」を実施しました。

※ 消費者のかぜや鼻炎の症状などの意識をウェブサイト上で調査する仮想の研究所

【調査期間】

2014年4月10日～11日

【調査対象】

全国20～60代の男女約1,000名 各年代200名(男性:100名/女性:100名)

【調査方法】

インターネットでのアンケート調査

● 性別

性別	N	%
男性	515	50.0
女性	515	50.0
合計	1,030	100.0

● 年齢

年齢	N	%
20才～24才	68	6.6
25才～29才	138	13.4
30才～34才	81	7.9
35才～39才	125	12.1
40才～44才	107	10.4
45才～49才	99	9.6
50才～54才	115	11.2
55才～59才	91	8.8
60才以上	206	20.0
全体	1030	100.0

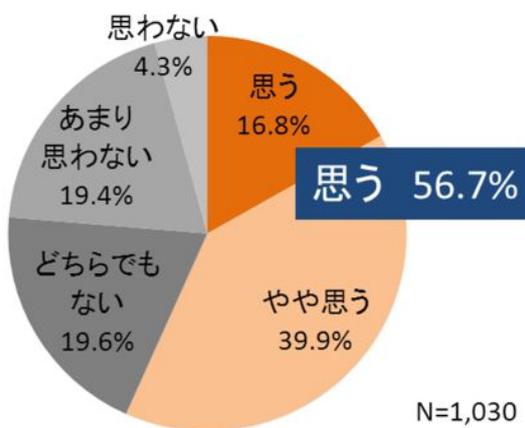
● 職業

職業	N	%
公務員	37	3.6
経営者・役員	17	1.7
会社員(事務系)	148	14.4
会社員(技術系)	119	11.6
会社員(その他)	113	11.0
自営業	61	5.9
自由業	23	2.2
専業主婦(主夫)	237	23.0
パート・アルバイト	104	10.1
学生	48	4.7
その他	39	3.8
無職	84	8.2
全体	1,030	100.0

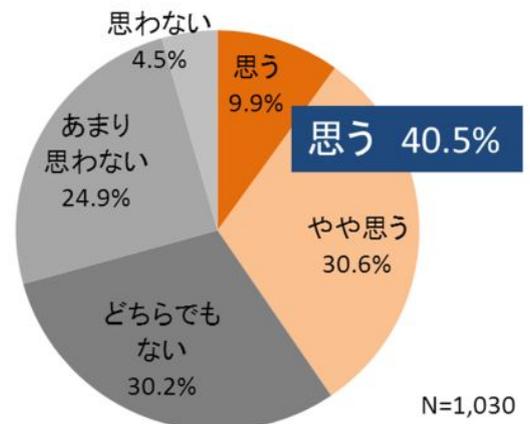
今どきのかぜの印象

- 最近のかぜは、以前(4~5年前などの印象)に比べて、長引くと思うか聞いたところ、「思う」「やや思う」と回答した人が合わせて56.7%と半数以上でした。また、以前に比べて症状が強いかという問いには、「思う」「やや思う」が40.5%と、いずれも「あまり思わない」「思わない」と回答した結果を上回り、全般的にかぜが強力化している印象を持っている傾向が窺えました。

Q1、最近のかぜは、以前に比べて長引く(しつこい、ぶり返す等)と思いますか？(単一選択)

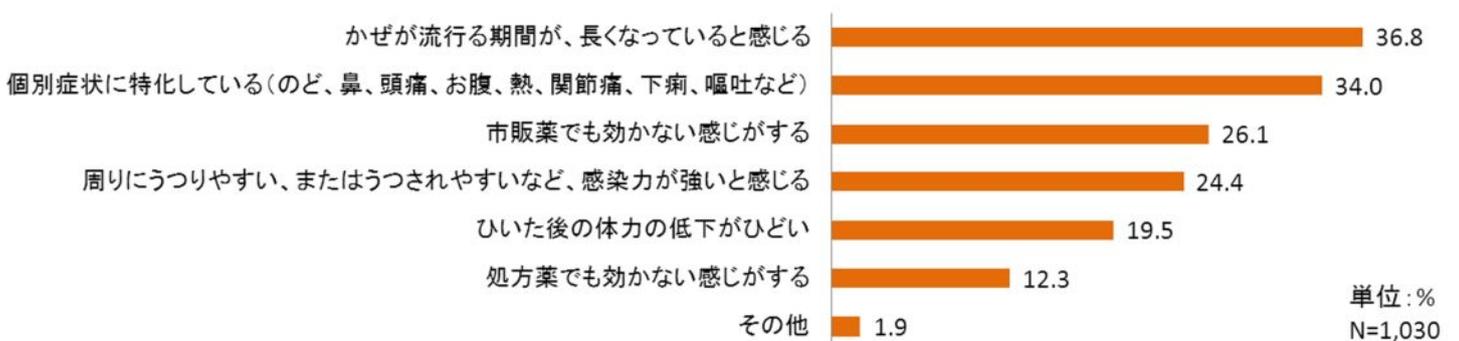


Q2、最近のかぜは、以前に比べて症状が強(高熱がでる、のどの痛みや咳、鼻の症状がひどい等)と思いますか？(単一選択)



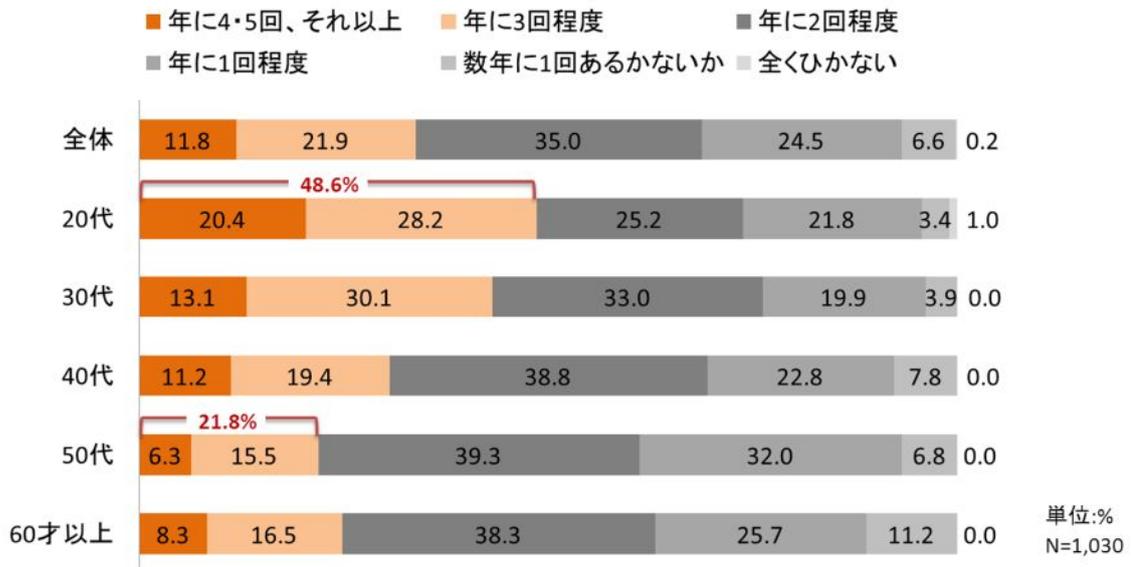
- 最近のかぜが以前と違うと感じる点を聞いたところ、「かぜが流行る期間が、長くなっていると感じる(36.8%)」、「個別症状に特化している[のど、鼻、頭痛、お腹、熱、関節痛、下痢、嘔吐など](34.0%)」、「周りにうつりやすいなど、感染力が強と感じる(24.4%)」などが上位に上がり、何らかの変化を感じている人が少なくない結果となっています。

Q3、最近のかぜが以前と違うと感じる項目をお選び下さい。(複数選択)



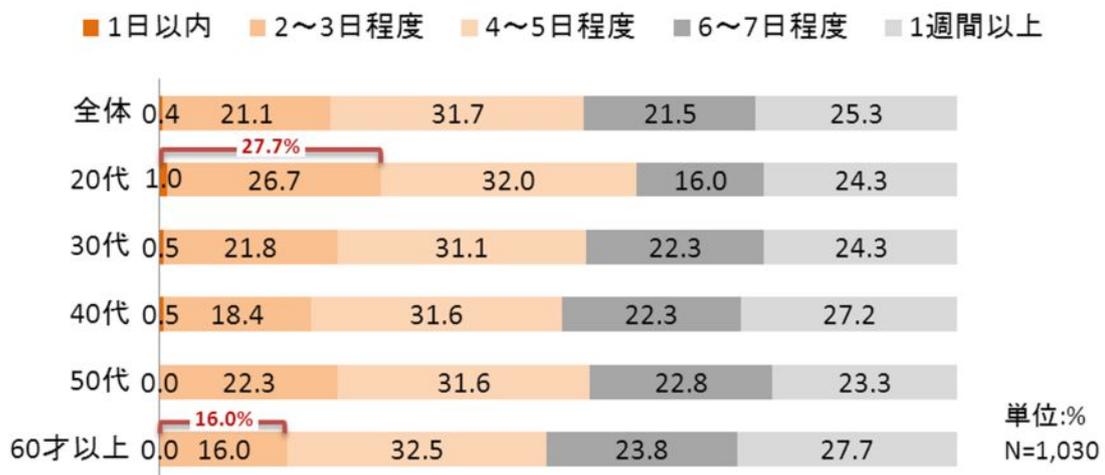
- 世代別に年にどのぐらいかぜをひくか聞いたところ、1回以上かぜをひいているのは、20～30代が最も多く、さらに、頻繁(年3回以上)にかぜをひいている世代は、20代の若年層がトップで48.6%でした。最も頻度が低かった50代の21.8%と比較すると、26.8ポイントも差があります。頻繁にかぜをひく頻度は、年齢を重ねるほど減少。特に20代は、ストレス、睡眠不足、運動不足、食生活などのライフスタイルの乱れを実感しているため、かぜをひきやすい世代であると考えられます。

Q4、かぜをひく回数を教えてください。(単一選択)



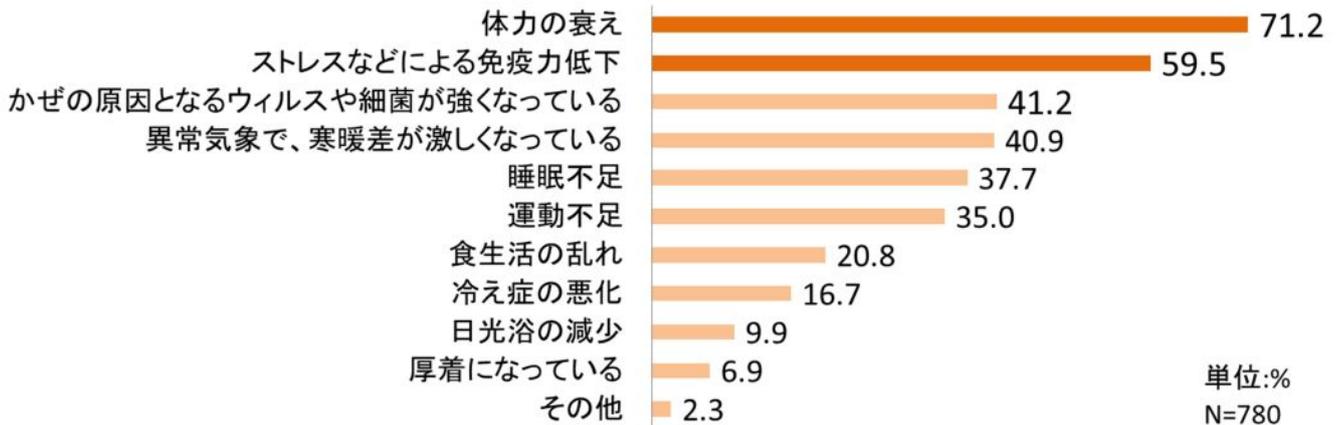
- 頻繁(年3回以上)にかぜをひく世代は、20代と若年層であったものの、回復が早い(2～3日程度で完治)世代は、20代がトップでした。60代と比較すると、11.7ポイントも差があります。シニア層は、かぜをひく頻度は高くないものの、かぜをひくと長引く傾向があるため、日頃からかぜ予防などの注意が必要な世代だと考えられます。

Q5、かぜのひき始めから完治まで、およそ何日ぐらいかかりますか？(単一選択)

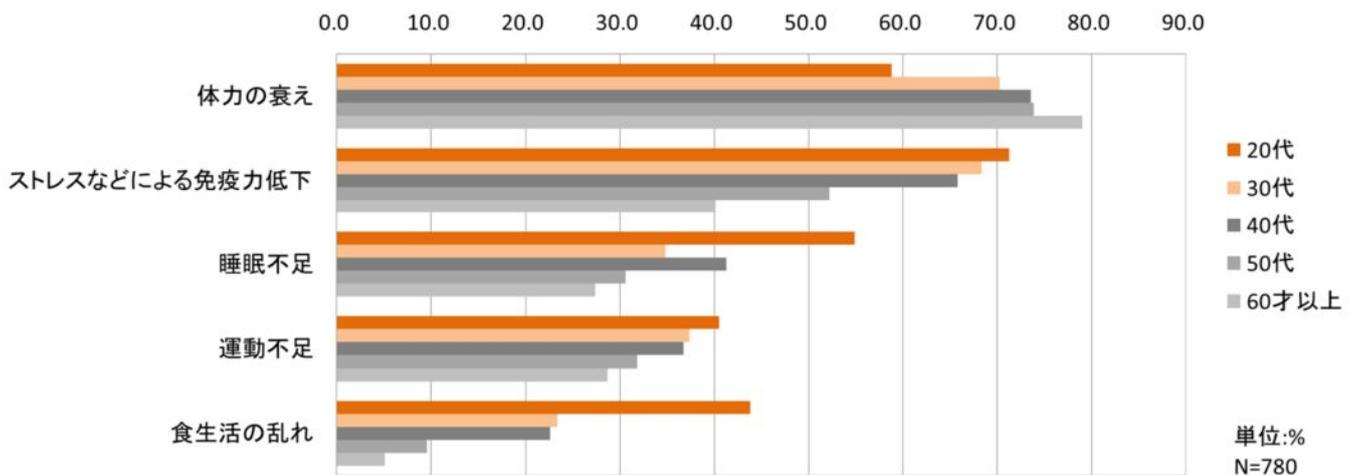


- 以前に比べ、かぜが変わっていると思われる要因は、「体力の衰え(71.2%)」、「ストレスなどによる免疫力低下(59.5%)」が上位で、次いで、「かぜの原因となるウイルスや細菌が強くなっている(41.2%)」が上げられました。世代別に見ると、体力の衰えは、年齢を重ねるほど実感率が増加しています。ストレスなどによる免疫力低下は、若年層になるほど増え、さらに、睡眠不足、運動不足、食生活などについても、全て20代が最も自覚している結果となり、若年層のライフスタイルの乱れが、かぜを強力化させている印象と結びついていることがわかりました。

Q6、最近のかぜの症状が長引く、強いなど、以前に比べて変わっていると思われる要因について、当てはまるものをお選びください。(複数選択)



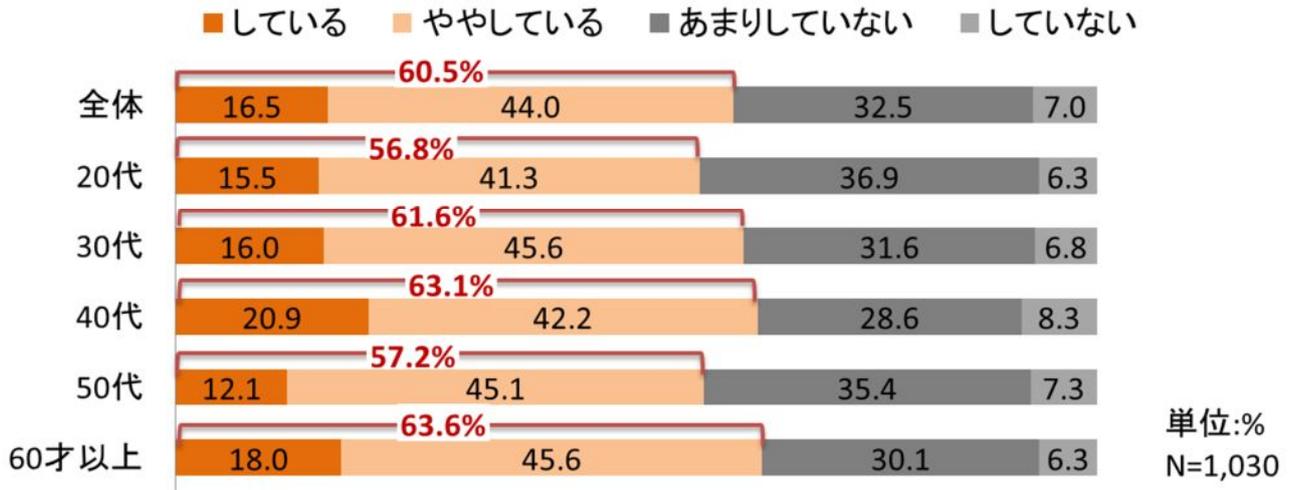
【世代別(一部)】最近のかぜの症状が長引く、強いなど、以前に比べて変わっていると思われる要因について、当てはまるものをお選びください。(複数選択)



かぜの予防意識

- かぜが流行るシーズンになると、かぜ予防をしている人は、60.5%と半数以上で、最も予防をしている世代は、60代(63.6%)、40代(63.1%)、30代(61.6%)と続きました。かぜを頻繁にひく20代は、56.8%と、予防意識に関しては、最下位となっています。20代は、最もかぜを頻繁にひいている世代ですので、予防意識を高めることも大切です。

Q7、あなたはかぜシーズンになると、かぜ予防をしていますか？(単一選択)



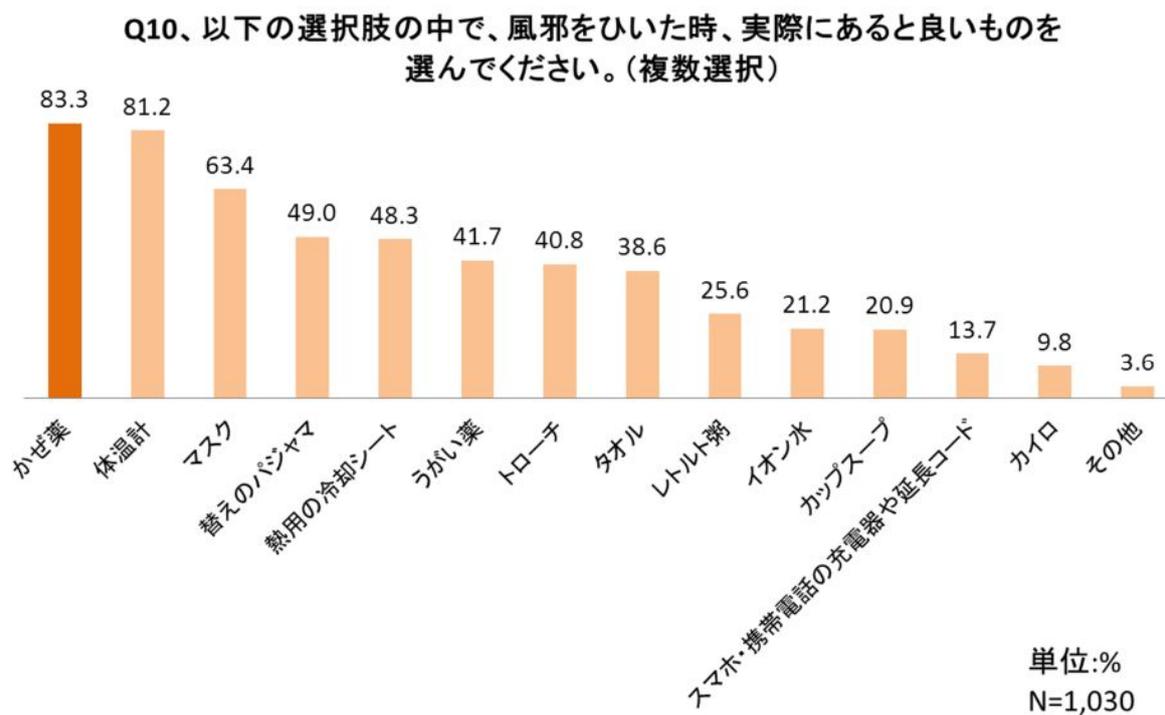
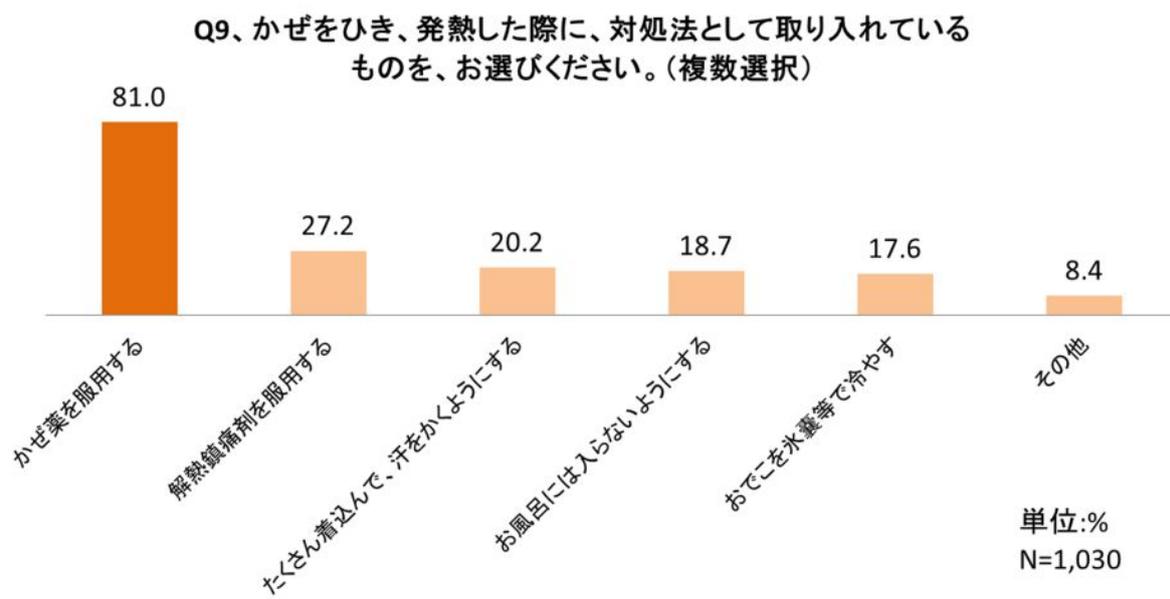
- かぜの予防法としては、基本的な手法として、「手洗いをする」ことを心がけている人が89.4%ともっとも高く、次いで、「うがいをする(81.7%)」、「マスクをする(66.5%)」が上位となっています。その他、自由回答としては、「カラオケに行かない。」「ショッピングセンターに行かない。」など、かぜの予防法として、人混みを避ける人も多くいました。

Q8、あなたがしているかぜ予防法をお選びください。(複数回答)



かぜの対処法

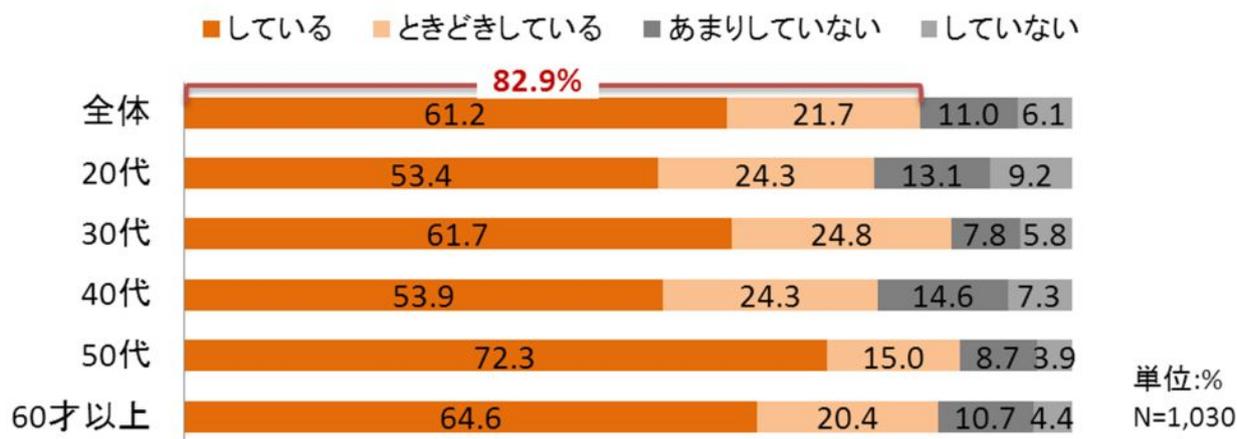
- かぜで発熱した際に、まず行う対処法は、「かぜ薬を服用する」が81.0%とトップでした。また、かぜをひいた際に、実際にあると良いものとしては、同じく「かぜ薬」がトップで83.3%という結果になっています。かぜの対処法としては、かぜ薬の服用に頼る人が8割以上と、薬を活用するニーズは、大変高い傾向にあります。



市販のかぜ薬選び

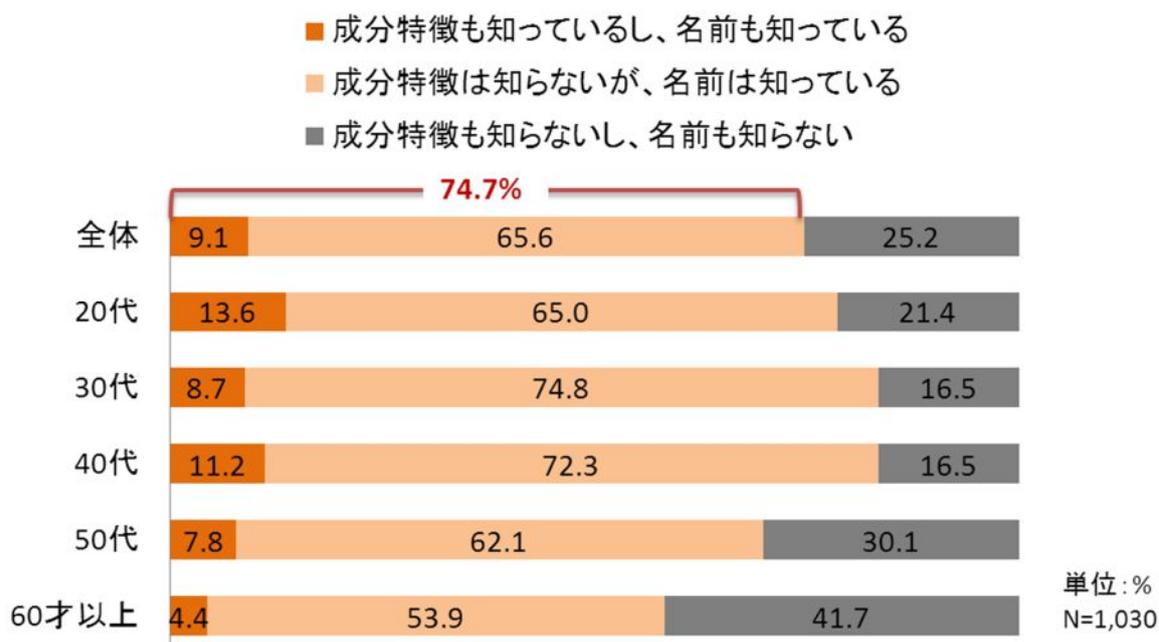
- 自宅にかぜ薬を常備している人は、「している」、「ときどきしている」合わせて82.9%で、多くの人が、かぜ薬を日頃から備えている結果となりました。世代別では、50代が最も常備している率が高い一方、かぜをひく頻度が高い20代は、最も常備率が低い結果となっています。20代は、かぜ予防意識の低さに加え、さらに日頃、かぜに備える意識も低い傾向にあるようです。

Q11、自宅にかぜ薬を常備していますか？(単一選択)



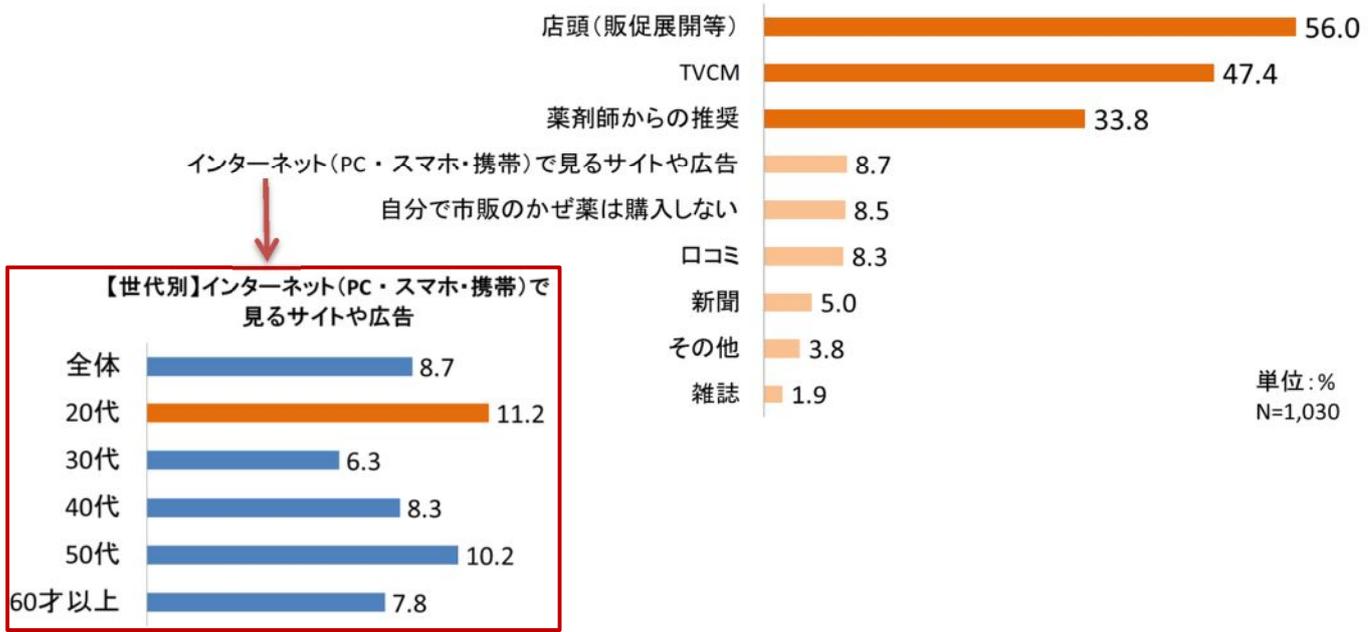
- 多くの市販のかぜ薬に配合されている成分「イブプロフェン」は、74.7%も認知されており、特に20～40代を中心に認知度が高い結果となっています。さらに、消炎鎮痛剤としての「イブプロフェン」の成分特徴に関しては、20代の13.6%が認知しており、年齢が上がるにつれ、成分特徴の認知率は下がっていく傾向にあります。昨今のかぜ薬 TVCM では、「イブプロフェン」配合であることを多く謳っていることから、若い層を中心に、「イブプロフェン」の認知が拡大している傾向があると考えられます。

Q12、かぜ薬の成分「イブプロフェン」についてご存知ですか？(単一選択)



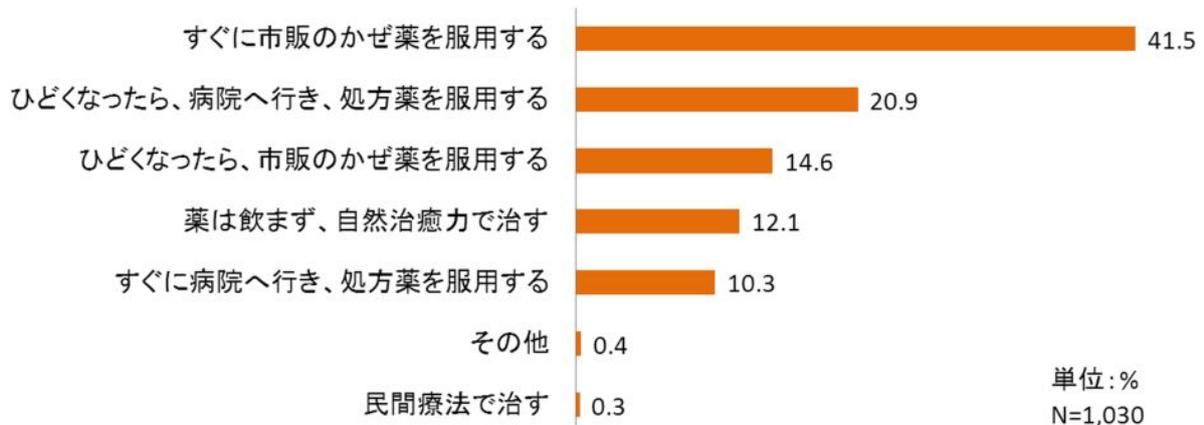
- どの市販のかぜ薬を購入するかは、店頭での販促展開から判断し、購入している人が最も多く、次いで、TVCM、薬剤師の推奨を参考にしている結果となりました。また、新聞、雑誌以上に、インターネット(PC・スマホ・携帯)で見るサイトや広告を参考にしている人の方が多く、特に20代は、インターネットを活用している率が他世代と比較し、最も高い状況となっています。

Q13、市販のかぜ薬を購入する際に、参考にするものを教えてください。(複数選択)



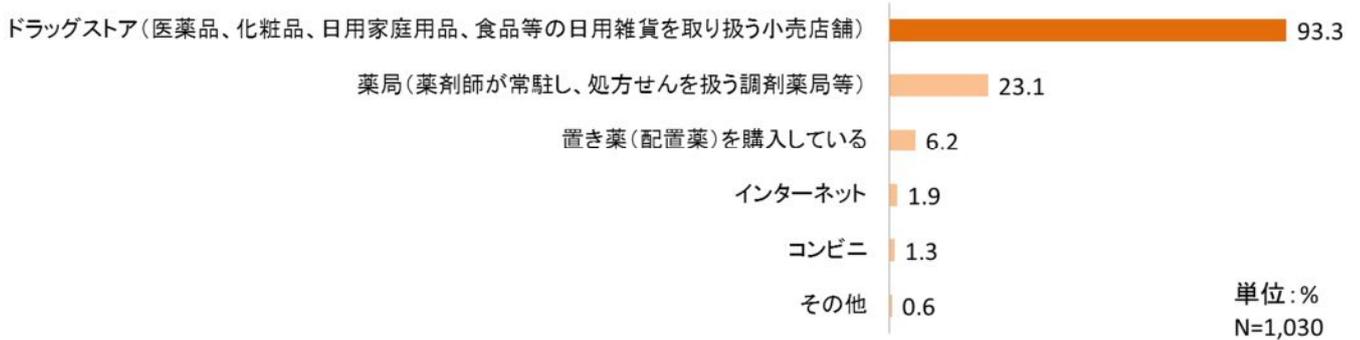
- かぜをひいた際、「すぐに市販のかぜ薬を服用する」人は41.5%と最も多く、市販薬の利用度が高い結果となっています。かぜが進行し、ひどくなってから処方薬や市販薬を服用する人は、2割以下と少ない結果となりました。また、薬を服用しない人は、わずか12.1%に留まり、薬に頼る人が多いようです。

Q14、かぜをひいた際の薬の服用についてあてはまるものをお答えください。(複数選択)

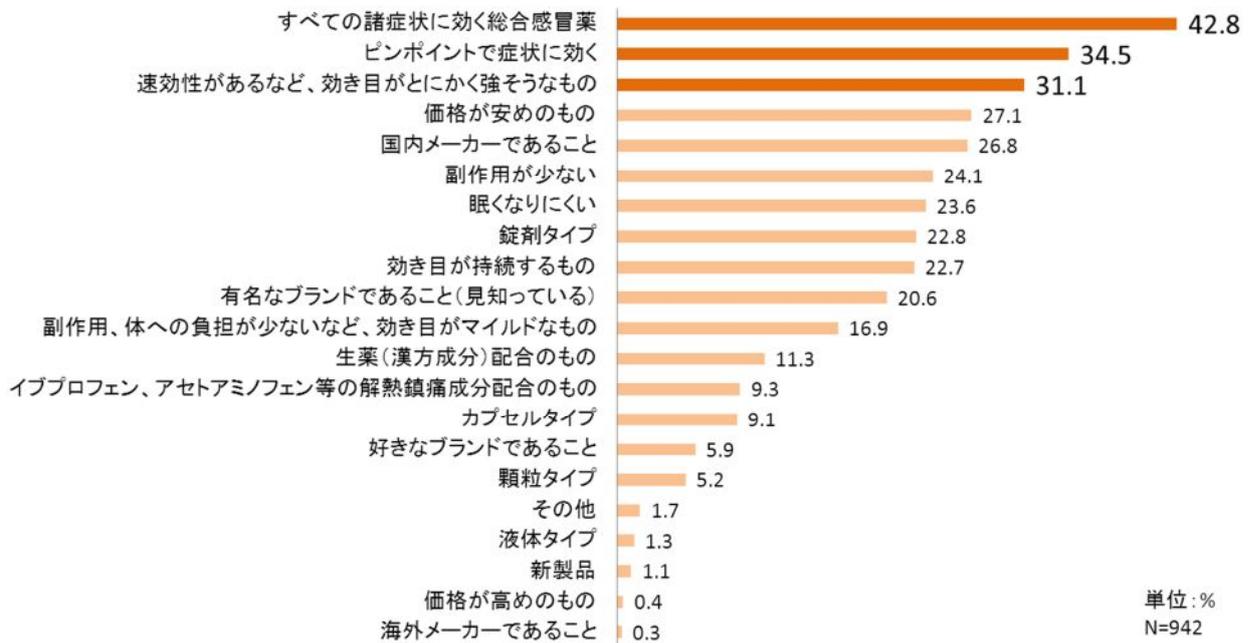


- 市販のかぜ薬の購入場所は、ドラッグストアが 93.3%と最も多い結果でした。
市販のかぜ薬選びで、重視する点については、1 位「すべての諸症状に効く総合感冒薬(42.8%)」、2 位「ピンポイントで症状に効く(34.5%)」、3 位「速効性があるなど、効き目がとにかく強そうなもの(31.1%)」となりました。世代別では、「すべての諸症状に効く総合感冒薬」に次ぎ、特に 20 代は「効き目が強そう」、「ピンポイントで効くもの」など、速効性を重視する一方、年代を重ねるごとに、「効き目が持続」、「副作用が少ないもの」を選ぶ傾向にあるようです。

Q15、市販のかぜ薬の購入の場所について、お答えください。(複数選択)



Q16、市販のかぜ薬選びで、重視する点は何ですか？(複数選択)



20代	1位	総合感冒薬(41.6%)	2位	効き目が強そうなもの(37.3%)	3位	ピンポイント(34.6%)
30代	1位	総合感冒薬(39.4%)	2位	ピンポイント(39.3%)	3位	価格が安めのもの(35.2%)
40代	1位	総合感冒薬(43.2%)	2位	ピンポイント(37.4%)	3位	効き目が強そうなもの(35.8%)
50代	1位	総合感冒薬(46.4%)	2位	ピンポイント(29.6%)	3位	副作用が少ない(28.6%)
60代	1位	総合感冒薬(43.3%)	2位	副作用が少ない(36.5%)	3位	国内メーカー(35.4%)

- かぜが長引く、重症化するなど、強化している印象の今どきのかぜに、新たにネーミングをつける場合、どのような名前がふさわしいか聞いたところ、もっとも多かったのは「いすわりかぜ(42.7%)」でした。長引く、しつこい、症状が強い等、いつまでもいすわっているかぜの印象を表現した、共感性の高いネーミングだと考えられます。

Q17、長引く、重症化するなど、最近強化している印象のかぜに新たにネーミングをつける場合、ふさわしいと思われるものをお選びください。(複数選択)

